

# 第3回 常総市復興計画策定委員会

## 会 議 要 旨

日 時 平成28年2月20日（土）

場 所 常総市役所 議会棟2階 大会議室

### 1 開会

### 2 委員長あいさつ

■今回が最後の委員会になります。第1回目の委員会では3つのことをお願いしました。

1つは、若い力に着目してほしいということ。人口減ということもあるが、これからは特に若い世代の力が必要になる。2つ目は、広域連携を含めた多様な主体との連携を考えてほしい。3つ目は常総ならではのということを意識していただきたいということでした。

■第2回目の委員会では、内目線と外目線ということをお話した。やはり市民が元気にならなければ意味がない、外目線は、外からの企業や多様な主体の力を借りることを考えないといけない。

■今回の委員会では、政策の優先順位、選択と集中を考えてほしい。財源も限られるわけですべて市ができるわけではない。今日は、この委員会または部会としてこの政策が重要だということをぜひ提案いただきたい。17時まで時間は用意しているが、議論する時間も限られるので、慎重にご議論いただきたい。

### 3 会議録署名委員の指名

遠藤正信委員・中島委員

### 4 第2回委員会会議録及び同会議要旨の確認

### 5 専門部会

<提案事業（案）の最終確認及び修正>

■4つの専門部会に分かれ、資料「答申書（案）」をもとに、内容の最終検討。

## 6 全体会

<各専門部会から提案事業（案）の検討結果報告および質疑応答>

### 【きもち部会】

#### ①「住み続けたいに応える」

- ・「住まいの総合相談」、「高床化費用支援」が限定され過ぎていたので、視点を広げて、「住まいの減災対策支援」に変更。
- ・その他の事業については、変更なし。

#### ②「戻りたい」を実現する

- ・戻りたい、住んでみたいを実現するということで、直接常総市に縁がない人にも呼び込むことを考えた。「生活再建」、「多世代」はそのまま。「よそもの・わかもの定住支援」を、移住についても考えるという意味で「みらいにつなげる」からここに移動させ、そのあとに住宅ローンという順番にする。

#### ③「ともに生き、絆を強める」

- ・「世代間交流」はサロンだけでなく、もう少し幅広くした。次が「国際交流」、「地元人材」、最後に「市民価値共創」とした。

#### ④「力を合わせる」

- ・ここは特に時間をかけて議論した。「情報発信力改革」を先頭にする。次に、市民と行政と一緒に考える場として「未来を考える市民会議」に事業名変更。「地域おこし」「オリ・パラ」はそのまま。「PPP・PFI」は文言の修正。この部分の最後に、「クラウドファンディング」を追加。

#### ⑤「みらいにつなげる」

- ・「よそもの・わかもの」を「戻りたい」に移動したので、3つとなる。公文書の部分を、未来を考える文書としていきたいとした。積極的な書き方にした。

(Q1) 学童クラブを削除したのはどういう意味があったのか。

(A1) 特定した表現を避けて、学童クラブに限らずという趣旨。

### 【くらし部会】

- #### ①「くらし」の柱の2つめに、「被災者の心のケアをする」とあるが、これを「潤いのある市民生活を取り戻す」に変更し、一番上の重点施策にする。「カウンセラー等の派遣」を

「心のケア」という事業名に変更。「サービス付き高齢者向き住宅等」を住宅等の確保という形に変更。

- ②「まちを学び、川に学ぶ」を2つ目の重点施策にし、「歴史展覧会」、「かわまちの歴史教育」の順番にする。「水海道河岸跡」を「水運や水害に関連する史跡を整備する」に変更する。
- ③「水辺の安心と魅力を高める」を3つ目の重点施策にする。事業の順番を「河川クリーンプロジェクト」、「河川敷・土手道散歩道の整備」、「拠点となる水辺公園の整備」、「水質浄化の推進」の順番に変更する。

河川敷や公園については、国としても市町村からこういった計画を先に出してもらえると整備・実現しやすいということがあったので、この位置にした。水辺公園の整備に関してアクセス路の記載があるが、「アクセス路をかさ上げするなど防災面の強化を兼ねる」を追加する。

- ④「川を楽しみ、健幸になる」については、「健幸」が当て字で分かりにくいという市民の方からも意見があったので、「健康で幸せになる」に変更する。2つ目に「小貝川三大堰を巡り楽しむ健康づくり」、3つ目に「スポーツ・コンテンツの開発と実施」の順番に変更する。
- ⑤「水害経験を資源に転じる」については、「縁結びの推進」、「水害学習ツアー」、「水害復興駅伝・マラソン大会」、「復興プロスポーツイベントの誘致」、「映画を作ろう!」、「常総市復興祈念 関東鉄道スリーナイン」の順番にする。駅伝の部分で、記載の「水海道地区・石下地区の中心」の部分を削除する。あえて、水海道や石下と地区名を強調する必要はないという意見があったため。

(Q1) 「心のケア」のところで、学校関係に限定せず、高齢者でも非常に心が病んでいる方もいるが。

(A1) 学校に限らず、被災者に限らず、高齢者も含めた市民全体の心のケアにすべき。地域包括ケアの部分で含めていると理解していただきたい。

#### 【まもり部会】

■重点施策については優先順位はつけていない。どれも重要なため。

- ①「丈夫なふるさとの基盤づくり」

・「避難施設・避難所の整備」、「防災・避難拠点の形成」、「河川防災ステーション」、「排

水施設整備と広域排水計画の推進、「災害に強い農産物貯蔵施設の構築」の順番に変更。

②「安全でスマートな空間づくり」

・「土地利用計画の見直し」、「農業土地改良の促進」、「コンパクトシティの実現」、「スマート交通システム実証実験の導入」の順番に変更。

③「日頃から減災のための人づくり」

・「まるごとまちごとハザードマップの作成」、「災害情報システムの再整備」、「中小企業の災害対応力向上」、「自ら考え、行動できる防災教育」、「地域防災計画作成」の順番に変更。

④「地域で助け合うコミュニティづくり」

・「共助体制の整備」、「集会所機能の充実」、「地域支え合いボランティアの育成」、「地域コミュニティ重点支援」の順番に変更。

⑤「市を越え支え合う連携づくり」

・「災害支援プロジェクトチームの常設」、「民間との災害連携協定の推進」、「水害復興友好都市締結」、「公共交通の広域連携」、「近隣自治体との災害連携協定の推進」の順番に変更。

※全体を通して、若干の字句の修正・追加を行った。大きな修正としては、「防災・避難拠点の形成」のところで、「交通の要となる常総インターチェンジ周辺に、地盤の嵩上げ等の対策を施した上で」を、「各種災害と交通の利便性を考慮した立地に十分な災害対策を施した上で」に変更。

**【ほこり部会】**

①重点施策の順番を入れ替えて「若者・後継者のネットワークづくりを支援する」を最後の重点施策とする。

②「アグリサイエンスバレーの促進」を1番目にする。

③「グリーンツーリズムの強化」を「農商工連携と世界展開を支援する」の「安心・安全なブランドの確立と発信」の次に入れる。

④「地域農業戦略の策定と実施」を1番目にする。

⑤「大規模防災道の駅の整備」を、「防災機能を持つ道の駅の整備」に変更する。

⑥「パイロット栽培作物への営農支援」を、「水田への畑作への転換支援」に変更する。

⑦「空き店舗の再活用促進」を、「新しい商業を考える場の創出」に変更する。

(委員等からの意見)

- 細かいところだが、答申案の基本方針の部分の「ほこり」の柱の基本姿勢だけ体言止めになっていて、他の3つの柱と違うので、調整が必要かと思う。1回目の時に被災者の声を反映してほしいと発言したが、どこからやっていくということは非常に注目している。若い世代の声を聴く場を作るということを盛り込んでいると理解している。この点は引き続き、災害に限らず、地域の振興を考えていくために若い世代の声を聴き続ける場に育てていっていただきたい。
- 常総市は農業の魅力が多い地域だと改めて知った。今回、計画を作るが、場所づくりだけでなく、人づくりが大切。継続していくことが大切。
- 他の委員もおっしゃっていたが、復興を超えるようなものにしてほしいということが一つ。4つの専門部会でキーワードになっているのが、圏央道インターチェンジ周辺の開発がとても重要になっている。道の駅を含めた周辺開発の中に、国際交流、防災、農業などの点を結んで線にして事業を推進してほしい。  
場所とともに、「縁結び」を大事にしてほしい。常総市だけでは難しい。近隣、首都圏、外国と縁結びをすべき。特に、足立区と防災協定を結び、将来高齢者の受入を行うなどのやり方もある。ブラジルとの関係も同じ。ブラジルの食やサンバなど、人的交流や農産物のやり取りなどもできるのではないか。
- 力を合わせるという言葉が大事に議論した。この答申は、常総市の中の人、外の人が真剣に話し合い、まとめてきた。このこと自体が非常に大切だと思う。こういった取り組みを今後も引き続き続けてほしい。
- いかに実行していくかが重要。市民参加型の仕組みを考えていただきたい。この計画の進捗のチェック機能をきちんとしていただきたい。
- 実効性を高めるという視点から、これからの事業を担う若者のネットワークと市役所の議論がつながるといことが大切なカギであると認識している。産業分野の若者との連携を行う仕組みを考えていただきたい。
- よそもの、若者として発言させていただいた。私が考えていたのは、地方創生とどうリンクさせるかということ。これらの案を動かす、結果を出すということに興味があるので、その部分に協力できる部分はしていきたい。
- 市民ワークショップの意見も多く取り入れていただき、ありがたいと思っている。しかし、この会議のスピードが非常に早かった。今後は、施策を実施する段階で、市民を含

めて、みんなで参加していく意識を持ってもらえるような記述をどこかに入れると良い。

#### <答申書手渡し>

(市長挨拶)

ただ今、常総市の将来を担う答申書をいただいた。総論だけでなく、各論についてもしっかりと議論していただき、誠にありがとうございました。今後も市民の意見を取り入れながら、復興に向けて具体的な活動を頑張ってまいりたい。引き続き、ご協力をいただきたい。

#### 7 その他

##### <常総市復興計画（案）のパブリックコメントについて>

■今後の復興計画の決定に向けての流れについて説明。

本日の答申を踏まえて、市で復興計画を策定し、その案を3月7日から3月20日までパブリックコメントに付す予定。

#### 8 閉会